

平成 25 年度 第 3 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

藤原 良一 栗島 聡 岡田 清久

Activity Report of SPM Research Committee

Ryoichi Fujihara Satoshi Kurishima Kiyohisa Okada

研究委員会では現在 9 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 25 年 6 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

プロジェクト計画立案のための要求整理方法を、QFD (Quality Function Deployment: 品質機能展開) の考え方を応用して検討しています。今年度は要件をプロジェクト成果物に整理するための方法を検討しています。

<過去 2 ケ月の活動実績>

- ・ 4 月 12 日 (月) 研究会開催

春季大会での発表結果のフィードバック、これまでの研究成果の確認と 2013 年度の活動方針を検討した。年内の目標として ProMAC2013 での発表を決定した。

- ・ 5 月 30 日 (木) 研究会開催

ProMAC2013 での発表要旨の確認を通して要件整理の方法、ソフトウェア機能洗い出しの方法を整理した。

<今後の予定>

- ・ 6 月 27 日 (木) 研究会開催予定

ProMAC2013 への予稿の確認と発表内容の精査を検討している。

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所, 大阪大学)

原則 2 か月に 1 回のペースで研究会を開催しています。プロジェクトに関わるリスクを中心に各会員が発表しています。現在、新規会員を募集中です。分野を問わずリスクやリスク・マネジメントに関心・興味のある方大歓迎です。

<今後の予定>

次回例会は現在のところ未定です。詳細はお問い合わせください。

【問い合わせ先】 spm-risk@yahoo.co.jp

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクトに焦点を当てて研究会を行っています。

<過去 2 ケ月の活動実績>

研究会では、5 月 23 日 (木) に新たな事例研究をテーマに活動を再開しました。社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICT プロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みます。

<今後の予定>

- ・ 7 月 19 日 (金) 研究会開催予定

柏の葉スマートシティの事例について

【問い合わせ先】 yoshidakn@nttdatacs.co.jp (吉田)

(4) PM 人材育成研究会

(主査: 池田 修一 富士ゼロックス)

2010 年から当研究会のメンバーが PM の育成やプロジェクトマネジメントに関する様々なテーマについて、学会誌に連載してきました。2013 年 4 月からは「企業のプロジェクトマネジメント力向上」を基本テーマとして研究していきます。各メンバーが基本テーマに関連するサブテーマをあげ、研究内で議論し、PM 人材育成研究会連載「第 2 部」として、2013 年 6 月から隔月に掲載していきます。

また、4 月からは新しい体制で研究会の活動を行うことになりました。

<過去 2 ケ月の活動実績>

4 月度例会では、新体制での主査を含めたメンバーの紹介や隔月に掲載するサブテーマの計画について議論しました。また、企業のプロジェクトマネジメントの形態や課題・問題、その対応について

て議論しました。5 月度例会では、「連載記事第 2 部プロログ」の内容についての議論および確認を行いました。成果物としては、6 月度に掲載予定。

さらに、研究会メンバーも固定化されてきているので新メンバー獲得のための施策等が検討され、掲載記事以外に何か魅力的な活動ができないか等の議論もしました。

<今後の活動予定>

- ・掲載記事のテーマの説明および議論
2 つ目のサブテーマとなる「プロジェクトマネジャーの新コンピテンシー」
- ・掲載記事以外のテーマの研究および議論
メンバー獲得策、新テーマの計画

【問い合わせ先】 pm-com@yahoogroups.jp

(5) パーソナル PM 研究会

(主査：富永 章 PM ラボラトリー)

当初は個人がモダン PM をどう活用するかという観点から始まりましたが、次第にセルフマネジメントに向けた知恵の体系になってきました。

現在の内容を分解してみますと、およそ半分は組織の PM と同じく、手法やプロセスといえます。しかしもう半分は、ビジョン、人や社会への貢献、心がけ、やる気、習慣づくりといった、いわば心の側面になっているのに気付きます。

具体的には、ゴールや目的を明確に掲げ、それに沿った目標設定をし、リスク、ステークホルダー、スコープやポートフォリオなどのマネジメントを行い、段取りよく目標を達成する、成果を関係者と共有する、人生を充実させる、人を育てる、そういうことに有益な知恵の体系化をめざす活動となっています。

現在、個人の時間づくり、リーダー育成、こどもびいえむ、PM への入り口とする工夫、関連分野の検討など、様々な取組がされています。過去に出版した書籍「パーソナルプロジェクトマネジメント」は引続き好評です。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

4 月 24 日第 52 回会合（於 筑波大学東京）PM 史等情報共有 2 件、自由発表 3 件

5 月 29 日第 53 回会合（於 筑波大学東京）情報共有と検討 4 件、自由発表 1 件

<今後の予定>

6 月 20 日第 54 回会合（於 筑波大学東京）情報共有と検討、自由発表

7 月 7 日第 55 回会合（於 PM ラボラトリー）情報共有と検討、自由発表、秋季大会準備

【問い合わせ先】 spm.ppmken@gmail.com

(6) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システムエンジニアリング)

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。毎月原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。お気軽に体験参加してください。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

- ・4 月 17 日(水) 第 43 回定例会合開催

「ちがいの発見」をキーワードに様々な観点から議論を展開しました。具体的には男性 PM と女性 PM の違い、日本とアメリカの違い（空間軸）、昔と今の違い（時間軸）などです。非常に活発な議論ができたことから、今後の活動テーマとしてさらに継続して深めていくこととなりました。

- ・05 月 15 日(水) 第 44 回定例会合開催

PMBOK ガイドに見る日米の PM のアプローチの違い、特に心理的・精神構造から見た日本人と PMBOK について議論を展開しました。PMBOK はビジネス戦略を実現するための戦術を明確にした物で、明確な対立構造を背景にしている、したがって農耕文化で戦略的思考を持たず、同調意識が強い日本人にはなじみにくいのではないかと、といった深い議論が展開されました。

また、10 月に関西にて開催予定のフォーラムについて、準備状況を確認し、今後の計画を策定いたしました。

<今後の予定>

- ・06 月 19 日(水) 第 45 回定例会合開催予定
- ・07 月 17 日(水) 第 46 回定例会合開催予定

【問い合わせ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(7) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

(主査：梶山 昌之 DSR)

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

3 月までの活動で Excel による統計活用 of 書籍 3 冊を学習し、その成果をコンテンツとして蓄積しました。4 月からは コスト見積り技法の知識体系である CEBOK(Cost Estimating Body of Knowledge)を活用するための学習と研究の活動を開始しまし

た。研究活動に当たり、日本コスト評価学会 (JSCEA) より資料の提供などご協力いただいています。

<今後の予定>

13 年度はコスト見積もり知識体系 (CEBoK) の内容を参照しながら、プロジェクトの定量的管理と見積りの応用面に重点を置いた活動を実施します。会合は 1 回/月を目安に会合を行いますので、ご興味ある方の参加をお待ちしております。研究会メンバーは Excel 統計および CEBoK 研究などの活動で作成したコンテンツを社内の研修資料や論文作成などに活用できます。

(8) ものづくり R&D プロジェクトマネジメント研究会

(主査：久保 裕史 千葉工業大学)

「研究開発プロジェクト」で役に立つ PM の知識体系構築を最終ゴールに据え、産学 18 名のメンバーが活動中です。これまでに実施した計 5 回の特別講演会や、数多くの先行研究・事例調査の結果、R&D への PM 適用上の問題は、必ずしもものづくり系固有の問題ではないことが明らかになりました。これらの問題点抽出・分析結果に基づき、現在、4 つのワーキンググループ (①啓蒙 WG, ②定義・ツール WG, ③ステージゲート WG, ④人材 WG) で、その対策案の検討を進めています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

- ・4 月 25 日：第 6 回定例会を開催

各 WG の活動報告と今年度計画のすり合わせを実施しました。

当日開催した講演会に、パナソニック(株)技監の菰田様を特別講師としてお招きし、マトリクス型 R&D 組織を用いた、新規研究テーマ立案、シーズ・ニーズのマッチングから事業化に至るまでの巧みな仕組みの事例をご紹介頂きました。社内にエコシステムを取り込む有力な手段のひとつと考えられます。

- ・6 月 3 日：第 1 回 WG リーダー会を実施

各 WG 活動推進と協同の進め方を協議しました。

<今後の予定>

- ・6 月 20 日：第 7 回研究会定例会

特別講師としてグロービス経営大学院の金子浩明先生をお招きし、ステージゲートに関する講演をして頂く予定です。

- ・7 月 25 日：第 2 回 WG リーダー会

今後、定例会の中間月に隔月開催する予定。

(9) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会 (主査：本間 利久 北海道大学)

2012 年 10 月に発足した新研究会です。研究会名称のフロネシスは、実践的知恵 (practical wisdom) と訳され、倫理や情動、人間の行為などが加味された総合的な知恵を意味しています。また、プロジェクトも、知識、技術、実践の総合知であることを考えると、プロジェクトマネジメントの知識・技術を実践の場で活かすには、単体のプロジェクト (PMBOK®ガイド) を取り巻いている世界 (①人間関係のスキル②一般的なマネジメント知識・スキル③プロジェクト環境の理解④適用分野の知識・標準・規制) を考慮する必要があります。このことがプロジェクトマネジメントの賢い実践につながります。

そのため、①②③の組織文化の違いの理解、乖離を埋める方策および新体系の創出・実践的知恵を探究し、その研究成果を外部に発信していくことを研究会の目的としています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

4 月 16 日(火)5 回研究会を北海道大学東京オフィスで開催し、現時点での研究会参加者が 18 名であることが紹介されました。9 月 16 日(月)開催予定のワークショップ in 韓国の日本側からの講演者と題目について 2 件決め、韓国側の講演関係は韓国側と相談して決めることにしました。尚、キャンパスツアーとして、漢陽大学病院の見学も可能であることが報告され、ワークショップの活動内容を PM 学会から出版することとしました。今後の研究会開催日程は、8 月を除き、毎月第 3 木曜日 19 時から北海道大学東京オフィスで行うこととしました。書籍「多変量解析入門」の紹介後、フロネシスに関する思想・哲学面、プロジェクト達成度の文化的影響とその線形・非線形的側面について、出席者との間で自由な意見交換がなされました。

5 月 16 日(木)第 6 回研究会を北海道大学東京オフィスで開催し、9 月 16 日韓国で開催予定のワークショップ in 韓国において、韓国側から 2 件の講演者と題目の紹介がありました。プログラムにおけるキャンパスツアーの開始時間の変更および全員参加情報交換会の設置についての説明があり了承されました。引き続き、「精神構造からみた日米の PM のアプローチの違い」について、最近出版された書籍「脳科学がビジネスをかえる」を基に、永谷副主査から話題提供があり、これまでのご自身の研究成果の一部の紹介と見解が述べられました。例えば、PMBOK の明示性 vs.日本人の精神構造の暗黙性、PMBOK の世界 (性悪説) vs.日

本人（性善説）、人と自然との対立 vs. 人と自然の一体化、日本人と欧米人とは脳の働きが違う（セロトニンの量の違い、顔の変化への敏感性、包括的な全体認識）。その後、研究会の出席者から、自由な活発な意見交換がなされました。最後に、研究会の開始時間を遅らせたことにより、次回開催場所を（株）アスカプランニングとして、様子を見ることにしました。

<今後の予定>

6月20日（木）第7回研究会を（株）アスカプランニングで開催し、これまでの研究会活動内容を報告後、ワークショップ in 韓国のプログラムおよび役割分担等を検討する予定です。また、書籍・資料等の紹介を行い、次回研究会の開催場所を調整します。

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】

研究委員会委員長 藤原 良一
fujihara-ryoichi@mdis.co.jp

研究委員会委員 吉田 賢吾
yoshida-kengo@mdis.co.jp

研究委員会委員 赤羽根 亮子
akabane-akiko@mdis.co.jp